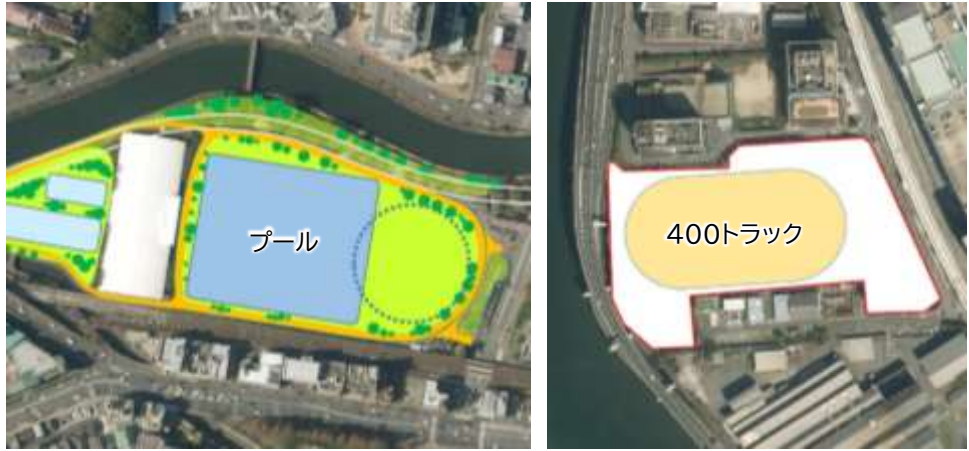


スポーツ施設の再配置について

スポーツ施設の再配置について

1. 第6回長崎市平和公園再整備基本計画検討委員会 及び 第6回長崎市平和公園スポーツ施設の再配置に関する再検討部会 合同会議（R6.5.22開催）

【まとめ】 パターン1とパターン4の両案に意見は集中したが、施設規模の確保、交通混雑、整備費の観点から、パターン4を支持肯定する意見が多かった。

	パターン1		パターン3-2		パターン4	
再配置先	プール	中部下水処理場跡へ移転	プール	陸上競技場の場所へ移転	プール	陸上競技場の場所へ移転
	陸上競技場	現地存続	陸上競技場	現在のプールの場所に陸上練習場として300mトラックを再配置	陸上競技場	中部下水処理場跡に陸上練習場として400mトラックを再配置
イメージ図						
備考	○軟弱地盤対策及び地下構造物の撤去費用等の整備費が高い ○集客施設の集積による交通混雑の可能性が高まる		○陸上トラックの規模が300mに縮小となる ○陸上トラックが高架下であるため、橋脚により死角が生じ安全性の確保が難しい		○陸上専用ではなく、多目的に利用できる広場空間にする必要がある ○誰もが安全に利用できるようにするためにルール作りなどの検討が必要である	

2.長崎市平和公園再整備基本計画検討委員会 中間報告書（提出日:令和6年6月7日）

【要旨】 ○パターン1及びパターン4に意見が絞られたものの、パターン4を支持し肯定する意見が多くあったとの内容。

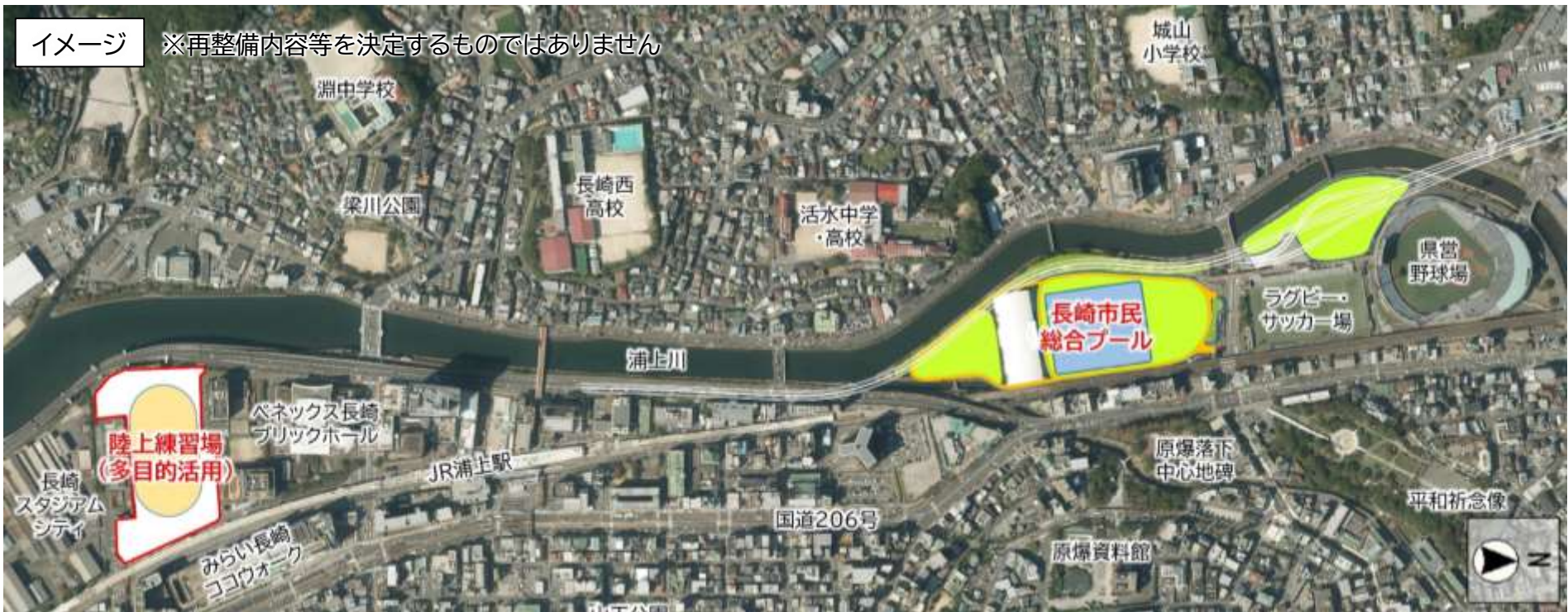
○「これまでの検討経過や委員の意見を踏まえ、都心部の未来の動向を見据えながら、より多くの市民に支持され、長崎市民にとって有益となるよう、スポーツ施設の再配置について判断いただきたい。」との意見。

3.長崎市民総合プールと陸上練習場の再配置先(令和6年11月26日)

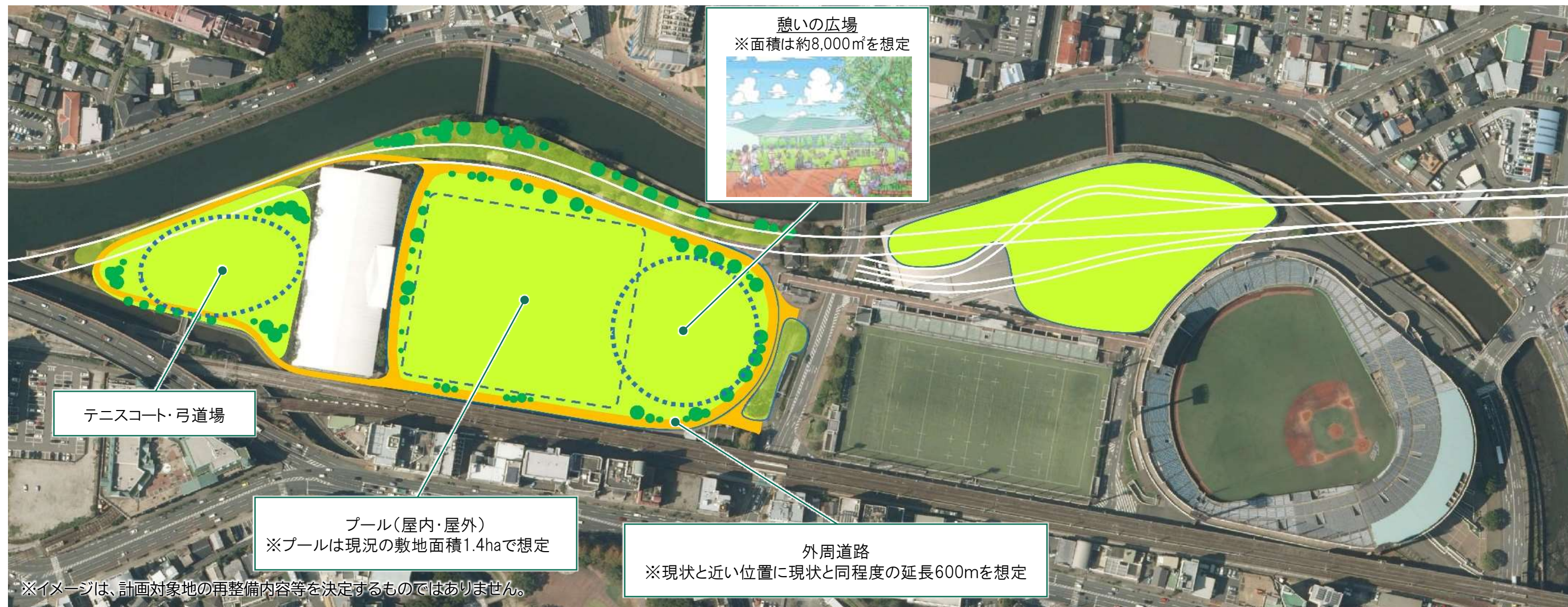
プールを陸上競技場に移転し、陸上練習場(400mトラック)は中部下水処理場跡に再配置する案が適当

【理由】

- 再検討部会及び検討委員会において、パターン4を支持肯定する意見が多く、陸上・水泳関係団体からも受け入れられている案である。
- パターン4の方が、パターン1に比べ経済性に優れている。
- 中部下水処理場跡地については、長崎都心まちづくり構想で「多目的な使い方ができる空間整備」とする方針が示されており、広場として活用できるパターン4の方がプールとして活用するパターン1に比べ、より方針に沿った整備が可能。
- 公共交通アクセス性において、中部下水処理場跡に陸上練習場の機能を確保した場合でも、中高生を主体とする現在の陸上競技場の利用者にとって、これまでと同様にアクセスが可能。



平和公園(西地区)のイメージ



4.整備段階での検討課題

再検討部会の報告(中間報告書より) → 平和との関連性を考えながら再配置の位置づけを検討する必要

合同会議の報告(中間報告書より) → 平和の視点

⇒ 景観や建物配置を含め、平和への想いや配慮をどのように反映していくか、検討が必要。

例: 次のような事実を後世に伝える。

○ 平和公園西地区一帯は、被爆当時「駒場町」だった。

○ 平和公園西地区内でも、原子爆弾により多くの方が犠牲になった。

【参考】神戸港震災メモリアルパーク

